

令和 6 年 5 月 19 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00494

研究課題名(和文) ユダヤ系フランス語亡命文学における神話の研究：フォンダーヌとガリを中心に

研究課題名(英文) Study of myths in Jewish French exil literature : Fondane et Gary

研究代表者

岩津 航 (Iwatsu, Ko)

金沢大学・人文学系・教授

研究者番号：60507359

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間中は、新型コロナウイルス感染拡大のため、前半期は海外出張が出来なくなり、予定していた文献調査や海外研究者との交流推進は進まなかったが、後半期にはフランスおよびルーマニアでの調査を実施することができた。併せて単著学術論文7本(査読有5本、うちフランス語4本)、学会・シンポジウム発表6件(海外1件を含む)、エッセイ2件、翻訳1件を発表し、フォンダーヌおよびガリに関する研究成果をさまざまな機会に発信することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって、第一にフォンダーヌとガリの文学史的な文脈を明らかにすることができた。彼らはイディッシュ語文学とルーマニア文学、フランス文学の歴史と切り結びながら、独自の越境を行ってきた。複数の文化圏を横断することで、神話を含む文化的要素のハイブリッドな混合に寄与した。また、オデュッセウス神話を中心とする神話的表象が、両者にとって想像力の構造化に寄与していることを明らかにした。これらの成果を通じて、神話と20世紀のユダヤ系文学におけるアイデンティティ構築との関係、すなわちヨーロッパ文学史における普遍的な部分と変容する部分を、それぞれ明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Due to the spread of COVID-19, it was impossible to make overseas trips during the first half of the research period, prevented from conducting the planned literature survey and promoting exchanges with foreign researchers, but I got able to go to France and Romania during the second half. Finally, I published seven single-authored academic papers (five refereed, including four in French), six presentations at conferences and symposiums (including one abroad), two essays, and one translation. I published this way my research results on Fondane and Gary at various opportunities.

研究分野：フランス文学

キーワード：フランス文学 ユダヤ系作家 神話

1. 研究開始当初の背景

20世紀は、かつてないほど多くの人々が政治的または経済的理由から亡命を余儀なくされた時代である。亡命者は生まれ育った文化的環境から切り離され、言語を変えながら生きていかなければならない。離郷の経験を深く刻印されたユダヤ人に多言語話者が多いのは、代々同じ土地に住み続けることが難しかった彼らの生活条件の反映である。彼らは複数の文化圏を横断することで、文化的要素のハイブリッドな混合に寄与した。ユダヤ系作家のアイデンティティの成立と表現方法を解明することは、ヨーロッパにおける多文化環境の解明につながる。

本研究では第二次大戦前後のフランスにおいて言語的越境を果たし、神話を援用したユダヤ系文学を代表するものとして、フォンダーヌとガリを対象とした。フォンダーヌは第二次大戦後に一度忘れ去られたが、1990年代以降に再評価の動きが加速し、2000年代に入ると主要作品が次々に復刊され、研究もフランス、アメリカ、イスラエルを中心に活況を呈している。しかし、日本においては研究はほとんど進んでおらず、申請者による複数の論文発表や口頭発表が、先駆的な研究に位置づけられる。一方、ガリはフランスでは作品が多数映画化され、代表作が中学高校の課題図書に選定されるなど、知名度および評価は圧倒的に高いが、研究は2000年代に入ってからようやく本格化したところであり、2019年のプレイヤード叢書版の刊行を契機に、これから学術研究が飛躍的に発展することが予想される。日本では比較的無名にとどまっていたが、申請者による『夜明けの約束』の日本語訳の刊行(2017)と同作品の映画版公開(邦題『母との約束、250通の手紙』、2020年1月)を受けて、広く認知されることとなった。

研究の中心に位置づけられる神話批評について述べる。作家が新しい環境とかつての環境をつなぐ人生の条件を模索するとき、神話は三つの役目を果たす。1)作家の個別的環境を反復可能な普遍的構図へと接続する。2)孤独や希望といった抒情的主題に叙事的性質を与える。3)神話の解釈そのものに新しい要素を付加する。作家がオリジナルの神話に加えた改変は、作家が置かれた状況を反映する。19世紀末の象徴主義からシュルレアリスムを経て第二次大戦後に至るまで、フランス文学史における神話の引用はそれぞれの時代を反映してきた。神話と20世紀のユダヤ系文学におけるアイデンティティ構築との関係を考察することは、ヨーロッパ文学史における普遍的な部分と変容する部分を、それぞれ明らかにすることにほかならない。

このように、本研究は、第一にフランスのユダヤ系文学に注目し、第二にフォンダーヌとガリという日本ではまだ知名度の低い二人の作家を取り上げ、第三に彼らの作品を神話批評の手法で分析しようとしたものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、20世紀フランスのユダヤ系亡命作家における神話とアイデンティティとの関係を解明することである。「ユリシーズ、おまえはユダヤ人だった」と述べたフォンダーヌは、同詩集で「我々は深淵の底から、どれほどあなたに向けて叫ばなければならないのか」と述べ、オデュッセウスと旧約聖書の世界観を重ねた。フォンダーヌは『ならず者ランボー』(1933)から遺作『ボードレールと深淵の経験』(1947)まで、師であるシュストフの哲学の影響の下、理性を超えた状況に言語で到達する手段としての詩について考察した。理性とは、人間が意志と能力の落差に対して感じる怒りや悲しみを「運命＝論理」として抑圧するものであり、神の理不尽な試練に対峙するユダヤ人は、彼にとってはそうした理性の抑圧に抵抗する存在を象徴するものであった。他方、ガリの『夜明けの約束』(1960)は、正義の実現を架空の神々との闘争として描き出し、自らをプロメテウスになぞらえた。第三部ではオデュッセウスの遍歴を下敷きにして、レジスタンス後の帰郷を語る。ガリは父親がナチスによって殺されたことを知りつつも、ユダヤ人を「ドイツ人に抹殺されそうになった人々」と定義することが、ユダヤ人がもつ「愚かさ」も含めた可能性を抹消することを危惧した。『ヨーロッパの教育』(1945)でポーランドの対独レジスタンスを描きながら、すでに抵抗者側の暴力にも注目していたガリは、『ジャンジス・コーンのダンス』(1967)では、元SS将校の脳内に住み着いたユダヤ人芸人の亡霊を登場させ、対話の可能性を探ってさえている。また、エミール・アジャールの筆名で二度目のゴンクール賞を獲得した事件からもわかるように、ガリは自らのアイデンティティを確定することを意図的に回避し続けた。

文学作品は歴史的現実を想像的世界において語る。と同時に、その使用言語と語りの構造自体が、作家の現実に対する態度を反映する。したがって文学研究は、テキストにおける歴史的事実と想像的世界との対応関係の解釈とともに、それが語りにおける表現の選択といかに関わり合うかを解明しなければならない。神話が作家の想像力を歴史的・文化的な位相において構造化する過程を分析することは、ヨーロッパ文学史の伝統のみならず、作家の社会との関係を測ることもである。このように、本研究の核心には、神話批評の手法で20世紀フランスのユダヤ系亡命文学を読み解くことで、想像力が時代の状況と切り結ぶ際の諸条件を解明するという根源的な

目標がある。

3. 研究の方法

フォンダーヌとガリを対照研究する方法を採用することによって、ユダヤ的かつ 20 世紀的な亡命者の条件を見出していくことができる。たとえば、ナチスによって殺されたフォンダーヌは、しばしば事後的な「悲劇的なユダヤ人のアイデンティティ」によって回収されるが、むしろ、詩人におけるアイデンティティを構築することへの欲求と疑念のせめぎあいのなかにこそ、ユダヤ的かつ 20 世紀的な亡命者の条件が見出される。このことは、アイデンティティをめぐる上述のガリの態度と対照研究することで、より明瞭に理解される。フォンダーヌとガリを対象とすることによって、20 世紀のユダヤ系亡命作家が歴史と神話を結びつける際の回路が単一ではないことを示し、その複雑な歴史的・文化的条件を解明する。また、複数の言語にまたがる創作活動の全体を見渡し、詩や小説といった表現ジャンルを横断し、神話を軸にしたヨーロッパ文学史の観点から 20 世紀フランスのユダヤ系亡命文学におけるアイデンティティ構築の表現を比較文学の手法で研究する。

研究の基礎的な作業として、まずテキスト調査を行う。フォンダーヌについては、ブカレスト・アヴァンギャルド時代以前のイディッシュ語文学との関係を調査するため、出身地ヤシおよびブカレストでの文献調査を行う。また、『ユリシーズ』の初版(1933)と最終版(1944、死後公刊)の異同、続編ともいえる『タイタニック』(1937)および『エクソダス』(1965、死後公刊)における神話表象を分析する。ガリは初期作品の改訂版を刊行し、英語版の翻訳を自ら監修した。そのため、初版と改訂版および作家の手による英語版の間には異同があるはずだが、詳細な調査はまだなされていない。初年度は、ガリ作品の初版と改訂版を可能な限り入手または閲覧し、綿密なテキスト校訂を行う。

以上の作業を経たうえで、それぞれのテキストにおける神話的要素を整理し、とくに使用言語によって作品構成における神話的要素に変化がないかを確認する。また、二人の作家の文学史的位置についても考察する。フォンダーヌについては、ルーマニア文学、フランス文学、アルゼンチン文学との接続まで、広範な文脈のなかで作家活動の全体を考察する。ガリの場合は、アメリカ文学との接点を調査する。フォンダーヌ、ガリとも、フランス国立図書館で同時代の批評について文献を調査する。

また、学術論文や研究書を通じて研究状況をフォローするのはもちろんのこと、世界の研究者とのネットワーク構築が不可欠である。すでに協力関係にあるアメリカのフィンケンタール教授(Johns Hopkins University)やルーマニアのヴァルカン教授(Universitatea din Arad)、近年のガリ研究を牽引しているフランスのルーメット教授(Université Toulouse Jean Jaurès)と面談またはテキストをやり取りし、研究の最新状況について情報共有を進める。

4. 研究成果

2020 年度から 2023 年度の研究期間中、本研究に関わる単著学術論文 7 本(査読 5 本、うちフランス語 4 本)、学会・シンポジウム発表 7 件、エッセイ 2 件、翻訳 1 件、書評 2 件を発表した。

学術論文

1. « Cioran au Japon : traduction et réception », 2020 年 12 月、*Alkemie*, n° 26, p. 173-186.
2. « Benjamin Fondane en quatre langues », 2021 年 11 月、*La Revue des lettres modernes, série Minores XIX-XX*, n°3, « Les Conrad français. Écrivains, étrangers, français (1918-1947) », Classiques Garnier, p. 65-81.
3. 「フォンダーヌとボードレール」、2022 年 4 月、『Nord-Est』第 15 号、日本フランス語フランス文学会東北支部、p. 3-7.
4. 「フォンダーヌにおける複数言語」、2023 年 3 月、『言語文化論叢』第 27 号、金沢大学外国語教育系、p. 47-65.
5. « Les romans d'Ulysse du XXI^e siècle : famille, exil, guerre », 2023 年 6 月、*Alkemie*, n° 31, p. 45-60.
6. « Cioran au Japon : traduction et réception », 2023 年 10 月、*Fernando Pessoa & Emil Cioran : Pensadores das Margens da Razão e da Civilização*, Edições Colibri, p. 131-146.
7. 「ロマン・ガリにおける郷愁の不在と理想の追求——『夜明けの約束』を中心に」、2023 年 12 月、『日本フランス語フランス文学会中部支部論集』第 47 号、日本フランス語フランス文学会中部支部、p. 117-137.

学会・シンポジウム発表

1. 「フォンダーヌとボードレール」、2021 年 11 月 27 日、「ボードレールの《世界性》」、日本フランス語フランス文学会東北支部大会、オンライン
2. 「チャプスキとブルースト——『収容所のブルースト』を中心に」、2022 年 6 月 4 日、日本ブルースト研究会、立教大学

3. 「ロマン・ガリにおける郷愁の不在——ヴィルノ、ニース、フランス」、2022年12月3日、日本フランス語フランス文学会中部支部大会、オンライン
4. 「どこで、どの言語で書くか フォンダヌ、ガリを中心に」、第3回「越境と郷愁」研究会、金沢大学人文学類、2022年12月7日、オンライン
5. 「文化の越境における変容と反動」、2023年8月2日、金沢大学人間社会研究域附属グローバル文化・研究センターキックオフ・シンポジウム
6. 「21世紀のオデュッセウス小説」、2023年12月7日、金沢大学人間社会研究域附属グローバル文化・研究センター越境文化研究部門シンポジウム
7. « Romain Gary : l'absence de la nostalgie et la quête de la justice », 2024年3月12日、Universitatea Aurel Vlaicu din Arad, Romania.

エッセイ

1. 「フォンダヌから見たボードレール」、『びーぐる』第53号、2021年10月、p. 39-42.
2. « Comment j'ai découvert Benjamin Fondane », *Cahiers Benjamin Fondane*, vol. 26, juin 2022, p. 144-145.

翻訳

1. クロエ・コルマン『姉妹のように』、2024年3月、早川書房、222p. (Cloé Korman, *Les Presque Sœurs*, Le Seuil, 2022) の全訳および訳者解説

書評

1. 「ソルジュ・シャランドン『ろくでなしの子ども』」、『ふらんす』、2022年1月号、p. 20.
2. 「ミシェル・ジャルティ『評伝ポール・ヴァレリー』」、『図書新聞』3622号、2024年1月13日、2面

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 岩津航	4. 巻 47
2. 論文標題 ロマン・ガリにおける郷愁の不在と理想の追求 『夜明けの約束』を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本フランス語フランス文学会中部支部論集	6. 最初と最後の頁 117-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ko Iwatsu	4. 巻 30
2. 論文標題 Les romans d'Ulysse du XXIe siècle : famille, exil, guerre	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Alkemie	6. 最初と最後の頁 45-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩津航	4. 巻 27
2. 論文標題 バンジャマン・フォンダヌにおける複数言語	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 言語文化論叢	6. 最初と最後の頁 47-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩津航	4. 巻 15
2. 論文標題 フォンダヌとボードレル	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Nord-Est	6. 最初と最後の頁 3-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ko Iwatsu	4. 巻 25
2. 論文標題 Comment j'ai decouvert Benjamin Fondane	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cahiers Benjamin Fondane	6. 最初と最後の頁 144-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ko Iwatsu	4. 巻 8
2. 論文標題 Benjamin Fondane en quatre langues	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 La Revue des lettres modernes. Minores XIX-XX-3 : Les Conrad francais. Ecrivains, etrangers, francais (1918-1947)	6. 最初と最後の頁 65-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.48611/isbn.978-2-406-12540-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩津航	4. 巻 15
2. 論文標題 フォンダーヌとボードレール	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Nord-Est	6. 最初と最後の頁 3-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩津航	4. 巻 53
2. 論文標題 フォンダーヌから見たボードレール	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 びーぐる	6. 最初と最後の頁 39-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩津航	4. 巻 2月号
2. 論文標題 ソルジュ・シャランドン『ろくでなしの子ども』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ふらんす	6. 最初と最後の頁 20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ko Iwatsu	4. 巻 26
2. 論文標題 Cioran au Japon : traduction et reception	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Alkemie	6. 最初と最後の頁 173-186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15122/isbn.978-2-406-11253-2.p.0173	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 Ko Iwatsu
2. 発表標題 Romain Gary : l'absence de la nostalgie et la quete de la justice
3. 学会等名 Brain Week at Universitatea Aurel Vlaicu din Arad (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 岩津航
2. 発表標題 21世紀のオデュッセウス小説
3. 学会等名 金沢大学人間社会研究域附属グローバル文化・研究センター越境文化研究部門シンポジウム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 岩津航
2. 発表標題 文化の越境における変容と反動
3. 学会等名 金沢大学人間社会研究域附属グローバル文化・研究センターキックオフ・シンポジウム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 岩津航
2. 発表標題 ロマン・ガリにおける郷愁の不在：ヴィルノ、ニース、フランス
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会中部支部大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩津航
2. 発表標題 どこで、どの言語で書くか：フォンダース、ガリを中心に
3. 学会等名 第3回「越境と郷愁」研究会（金沢大学人文学類）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩津航
2. 発表標題 チャプスキとプルースト 『収容所のプルースト』を中心に
3. 学会等名 日本プルースト研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩津航
2. 発表標題 フオンダーヌとボードレール
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会東北支部大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Ko Iwatsu et al.	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Edicoes Colibri	5. 総ページ数 236
3. 書名 Fernando Pessoa & Emil Cioran : Pensadores das Margens da Razao e da Civilizacao	

1. 著者名 クロエ・コルマン（岩津航訳）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 早川書房	5. 総ページ数 222
3. 書名 姉妹のように	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------